体験・交流型の修学旅行を提案

北海道・標津

「ほんもの」の「学び」がそこにある

知床しべつ町 小さな町の大きな挑戦

知床の自然環境・産業・食・平和学習

世界自然遺産知床の南に位置する当町は、海、山、川、大平原の恵みが集まる小さな北海道とも称されております。北は秘境、知床国立公園の山々が連なり、東の海岸から24㌔先に北方領土国後島が望め、内陸にはミルクの里の雄大な牧草地群が広がっております。豊かな自然資源のほか、国内屈指の漁獲を誇る秋鮭などの漁業資源や、広大な牧草地で2万頭以上の乳牛により牛乳を出荷する酪農業の基幹産業を活用した体験プログラムを中心に地域の人々との触れ合いや交流による体験プログラムで受け入れを行っております。

食への理解を深める

国内初となる食の安全・安心供給システム、水産業における「地域ハサップ」生産活動をプログラム化し、学習素材として提供しています。製品検査だけでなく、原材料の生産から加工、流通に至るまでの全工程であらゆる危害の発生を分析し、その危害が起こらないよう工程中の重要な管理点を監視するシステムを当地ではイクラや新巻鮭作り、ホタテ貝の貝剥き体験などを通し、学びを深めていただきます。

酪農が盛んな根釧地域では、周辺地域との連携により約40軒、生徒数80人の酪農家民泊の受け入れから、酪農業の仕事を学び、収穫の喜びを共有する活動を展開しています。より学びを深めるため、当町では事前・事後学習の実施を提案しております。酪農業を通し、生き物を世話し、向き合い、その命をいただく「いただきます」本来の意味を学べる絶好の機会として、大きな反響が寄せられています。

平和学習　北方領土を考える

終戦直後、旧ソ連軍が千島列島を侵攻し、北海道の間近までやって来たこと、北方四島に住んでいた1万7千人の人々が島を追われた史実についてはあまり知られていないのが国内的な現状です。島で暮らしていた元島民の高齢化に伴い、引き揚げ当時の様子などその真実を直接聞くチャンスが年々難しくなってきております。若い世代に戦争の恐怖や平和の大切さを講話やグループワークを通して考える体験は、日本の北方領土が間近に見える当地ならではの平和学習プログラムです。

交流が育む体験型プログラム

標津町では、自然、産業、歴史、平和を素材とした「エコ・ツーリズム交流」事業を展開しています。従来の有名観光地やテーマパークを巡るだけの修学旅行ではなく、地元住民との触れ合いや交流、体験から感動を共有します。体験では学生がまず「やってみる」ことにより、なぜできないのかを考え、地元住民との対話から解決するなど、自主性や解決力、対話力を養います。

受け入れ対応

地域の各分野のいわゆる「名人」が事前に安全対策などを学び、インストラクターとしての資質を兼ね備え、体験活動を先導します。大規模な宿泊施設がないなど不利な点もありましたが、小さな宿ならではのアットホームな雰囲気づくりなど、生徒の皆さんや先生にも「田舎の親戚の所に来たみたい！」と喜ばれております。

目的や日程、人員などを考慮した企画・スケジュールを提案し、提案から受け入れまで町エコ・ツーリズム交流推進協議会が責任をもって対応しております。

食の理解を深める新巻鮭作り体験

酪農王国で本場の酪農体験

郷土料理チャンチャン焼きの夕食

北方領土学習の講話

標津町エコ・ツーリズム交流推進協議会
〒086-1632北海道標津町北2条西1丁目1番3号
TEL 0153-82-2131　FAX 0153-82-1787
E-mail:kankou@shibetsutown.jp

オピニオン

次代を担う青少年の健全育成へ

テレビのコマーシャルは、スマートフォン（スマホ）とゲームが特に目に付く。電車の中の生徒たちには、学友と直接話している姿よりも、それぞれにスマホを見ている人が多い。かけがえのない青春時代になぜゲームなのか、なぜスマホなのか。

生の人間同士の交流コミュニケーションほど楽しく、おもしろく、ためになる時間はない。その時間こそが人間関係を育む能力の構築の機会となり、人生の宝となる。

学校教育現場でも、コミュニケーション機会は多くない。職場も、社会もそのコミュニケーションが足りないことで、うまくいかないことが多い。18歳選挙権に続いて成人年齢を18歳にする法案が閣議決定されるなど、主権者教育に続いて、今にも増して人間教育が重要となる。

人生で1回しかない修学旅行が現代に必要なものでなくてはならない。それには、別の機会にも訪ねることが容易な観光施設ではなく、この時代に生きた証となる新たな出会いと体験が求められている。

新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、自分の学びたいテーマや体験を主体的に選び、体験プログラムインストラクターや民家ステイのホストファミリーなどとの対話から、深い学びにつなげてほしい。

ここに掲載している19地域はいずれも、安心安全で教育効果の高い在宅型の民家ステイと豊富な体験プログラムを整備し、「主体的・対話的で深い学び」や学校の「地域社会貢献プログラム」を整備している。ぜひ、次代を担う青少年の健全育成にご活用いただきたい。

株式会社 体験教育企画
代表取締役　藤澤　安良

岩手県・久慈市

民泊受け入れ300人が可能

山、里、海まるごと体験

岩手県久慈市は北上山系の北東部に位置し、三陸復興国立公園と久慈平庭県立自然公園に囲まれ、海の幸、山の幸に恵まれた風光明媚なまちです。広大な海と山々、日本短角牛、伝統食文化、木炭生産、心の通う民泊など、豊かな自然環境と素朴な生活文化、温かな人々のいる久慈市は、山、里、海の全ての体験を堪能できます。

豊かなフィールドと人情味のあるインストラクターのもとで、安心して心を開くことができる体験環境を作っており、仲間を尊重し、自己を見つめ、感じたことを素直に表現し合う学びの場所を目指しています。日々の受け入れの中で、生徒たちから学ぶことも多くあり、私たちにとっては何気ない日常の体験でも感動してくれる姿を見て活力をいただいております。

山では、学校に森をまるごとお貸しする「学校の森づくり体験」ができます。自由な発想で学校独自の森を創り、そこから学び、守り、遊び、授かり、実に多くのことを森は気づかせてくれます。

里では、山肌を削った約9千万年前の地層から琥珀を採掘する「琥珀採掘体験」ができます。過去に虫入りの琥珀や恐竜の化石も発見されるなど、貴重な体験ができるのは全国でも久慈市のみです。

海では、地元の漁師が所有する小型漁船「サッパ船」に乗船し、「刺網漁」の体験や網から魚を外す作業など、ほんものの漁を体験することができます。

そして何より人気のプログラムが「農林漁家民泊体験」です。農家、漁家の家庭に民泊し、地元都会の喧騒から離れ、川や波の音に癒され、満天の星空を見て感動し、民泊家庭のお父さん、お母さん、お爺ちゃん、お婆ちゃんの優しさに触れているうちに、生徒の表情が変わっていくのがよく分かります。

久慈市教育旅行は、合併前の旧山形村時代、第1次産業の衰退や過疎化など首都圏への人口流出対策、地域活性化を図ることを目的として開始し、最大360人規模の受け入れも可能ですのでご相談ください。

生徒個人が置かれた状況に向き合い、自らがどのような行動を起こし、他の人々や社会と心や絆でつながる大切さに気づくこと。「アクティブラーニング」により「生きる力」を身につける学びの場所がここにあります。

民泊（ホームステイ）

漁家や農家を中心に90軒の受け入れ家庭があり、約250人の子どもたちと交流が可能です。津波で流失した自宅をようやく再建し、受け入れを再開した家庭もあります。久慈市など近隣市町村との広域的な連携により、最大360人規模の受け入れも可能ですのでご相談ください。

宿泊ホテル

350人の収容能力を持つ「ホテル羅賀荘」は被災後にリニューアルオープン。屋内交流センターもホテルに隣接して整備され、セレモニーや班別ワークショップなど多目的スペースの確保が可能です。宿を出るとすぐに体験現場という絶好のロケーションは、滞在中に効率的なプログラムを組むことができます。

■お奨めプログラム

サッパ船アドベンチャーズ　津波被災から即座に運航を再開し、三陸地域の観光復興をけん引しています。漁に使う小型漁船（サッパ船）に乗り、断崖直下や岩礁の間を縫うように航行する漁師の勇姿に気迫を感じます。

漁師番屋　漁業体験施設「机浜番屋群」が復元され、「漁師料理」「塩づくり」など、地元漁師やおかあちゃんインストラクターが各種体験メニューを提供しています。

大津波語り部・震災遺構　被災した住民らが、津波の脅威、当時の自らの行動や辛い避難生活、支援や絆への想いについて現地を案内しながら語ります。宿での「語り部」講演やグループでのワークショップについても対応が可能です。津波のエネルギーや被害の悲惨さを長く後世に伝えるため、被災した防潮堤が「震災遺構」として保存され、当時の状況がよりリアルに伝わります。

森づくりや農業、畜産や漁業などの第1次産業体験は仕事への理解を深めます。

民泊体験は、必然的に対話や交流が必要な状況下にあり、生徒の自主性が育まれる最適な環境です。多くの先生から「生徒の新たな一面を発見した」などの声をいただいており、普段の学校生活とは違う環境にいることで、生徒は人間の本質に気付くものだと思います。また、各家庭での手伝いや交流を通じ、コミュニケーション能力の向上や、地域、家庭の活性化につながるものと思います。

久慈市の民泊は、山側50軒200人、海側20軒100人の受け入れが可能です。

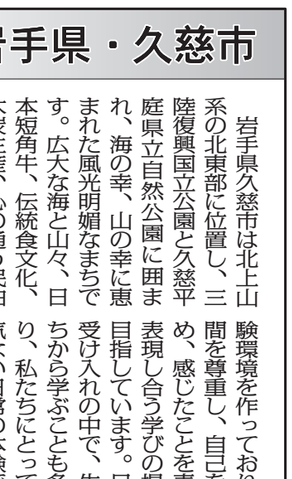
さまざまなご要望に対応いたしますので、詳しくは下記の連絡先までお気軽にご連絡ください。

大迫力のシャワークライミング

心が通う民泊体験

漁船に乗って漁を体験

学校に山をまるごと貸し出し


国内で唯一の琥珀採掘体験

ふるさと体験学習協会
担当者　事務局長　高橋昭治
営業時間　平日8：30～17：15
〒028-0051 岩手県久慈市川崎町1-1
（久慈市役所観光交流課内）
TEL 0194-75-3005　FAX 0194-75-3007
E-mail:info@kuji-taiken.jp
URL:http://www.kuji-taiken.jp/

岩手県・三陸海岸

大震災体験の伝承・復興への歩み・生き抜く力

被災地だから「私たちには伝えなければならない責任」があります

岩手県田野畑村は、三陸復興国立公園の北部に位置し、「日本一の海岸美」と称される「北山崎」など恵まれた景観の中に人口3千人強の住民が漁業や酪農を営み、大自然や農山漁村の豊かさを五感で感じることができる場所です。

平成23年3月11日に村を襲った大津波は、住み慣れた家、船や漁港施設のみならず、尊い人命をも奪い去りました。悲惨な現実やその後の不自由な生活を乗り越えて、生業の再興や復興へと歩むたくましい住民の姿は、訪れる生徒たちの目にどのように焼き付き、感性や心情に響いていくのでしょうか。

生徒個人が置かれた状況に対応しています。各プログラムの指導者や民泊家庭は、定期的な研修を行い、漁船プログラムについては海上保安庁などとの連携訓練を実施するなど安全確保に努めています。

組織と教育訓練

「体験村・たのはたネットワーク」がコーディネート組織として、お問い合わせや手配のワンストップ化を図り、田野畑村役場が後方支援をする官民一体の体制を整え、学校や旅行会社の目的や要望に対し、迅速、柔軟ご相談ください。

人気のサッパ船による漁業体験の現場

復元された体験施設「机浜番屋群」

復旧再開したホテル羅賀荘

「大津波語り部」から生きる力を学ぶ

NPO法人 体験村・たのはたネットワーク
担当　楠田・赤坂
〒028-8402 岩手県下閉伊郡田野畑村机142-3
机浜番屋群内
TEL 0194-37-1211　FAX 0194-33-3355
E-mail:taiken-tanohata@car.ocn.ne.jp
URL:http://www.tanohata-taiken.jp/